

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員 殿

福岡県病虫害防除所長

平成23年度病虫害発生予報第10号（1月）について

このことについて、病虫害発生予報第10号を発表したので送付します。

予報第10号

**キュウリべと病、うどんこ病が多発傾向です！**

10月下旬～11月中旬の多雨・日照不足により、キュウリで病害の発生が多くなっています。特に、べと病・うどんこ病は、多発ほ場が例年より多く認められています。

さらに、向こう1か月の日照時間の予報は平年並か少ないため、本病の発生拡大が懸念されます。

多発後は防除が困難となるため、早期発見に努めて、発生初期の防除を徹底するとともに、換気や肥培管理を含めた適正栽培を心がけましょう。



べと病の病徴



うどんこ病の病徴

**レタス菌核病が多発しています！**

10月下旬～11月中旬の多雨・日照不足により、レタス菌核病が多発しています。

向こう1か月の降水量の予報は平年並か多いため、本病の発生拡大が懸念されます。

昨年は12月～1月上旬にかけて多雨・日照不足であったため、1月中旬に本病が多発しました。

発病初期の薬剤防除を徹底し、トンネル栽培では換気を行い、多湿にならないように管理しましょう。

また、被害株は菌核をつくらぬうちに早めに除去・処分し、ほ場内に残さないようにしましょう。



菌核病による腐敗症状

1月における主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

主な病害虫の発生予報概要

作物名	病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (1月の発生予報)	
		平年比	平年比	前年比
冬春イチゴ	うどんこ病 ハダニ類	並 やや多	並 並	並 並
冬春ナス	すすかび病 ミナミキイロアザミウマ	多 多	やや多 多	多 並
冬春トマト	葉かび病	並	並	多
冬春キュウリ	べと病 うどんこ病	多 多	多 多	多 多
冬レタス	菌核病	多	多	並

<予想される向こう1か月の天候（平成23年12月17日～平成24年1月16日）>

平年に比べ曇りや雪または雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は低いでしょう。降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。週別の気温は、1～2週間目は低く、3～4週間目は平年並か高いでしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

要素	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	50	30	20
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

（福岡管区気象台 平成23年12月16日発表抜粋）

物別発生予報

注①：この予報は病害虫防除所の現地調査結果に基づき、情報作成会議を経て作成しています。

注②：予報の根拠の末尾の（ ）書きは、（+）は発生を助長する要因、（-）は発生を抑制する要因、（±）は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示します。

【野菜：冬春イチゴ】

1 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年並であった（±）。

発病株率 0.9%（平年 0.7%、前年 0.4%）

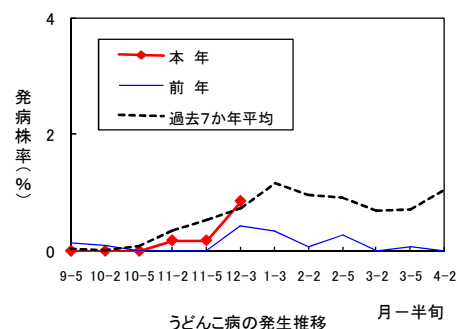
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年並か多いとされている（±）。

(3) 防除上の注意

ア 早期発見に努め、下葉かぎ後、薬液が葉裏にもかかるように丁寧に散布する。

イ ハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え異なる系統の薬剤を散布する。



## 2 ハダニ類

### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

### (2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった(+)。

寄生株率 11.0% (平年 7.2%、前年 4.4%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年並か多いとされている(-)。

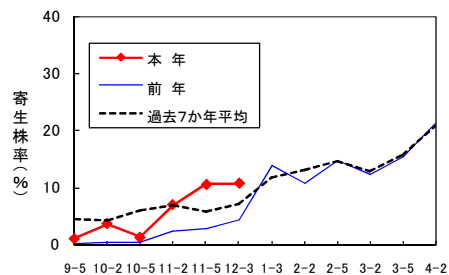
### (3) 防除上の注意

ア 本種は、はじめスポット的に発生し、下位葉ほど寄生が多いので、葉かぎ等の管理作業時によく観察し、発生を認めたら早めに防除を行う。

イ 防除は摘葉後に行い、葉裏に薬剤が十分にかかるようにする。

ウ 摘葉や除草した雑草は、ほ場内に放置せず、ビニル袋に入れ密閉して処分する。

エ カブリダニ類等を放飼しているほ場では、天敵に対して影響の少ない殺ダニ剤を散布する。



ハダニ類の発生推移 月一半旬

## 【野菜：冬春ナス】

### 1 すずかび病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多、前年より多

#### (2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年より多かった(+).

発病株率 13.1% (平年 6.1%、前年 1.9%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年並か多いとされている(±)。

#### (3) 防除上の注意

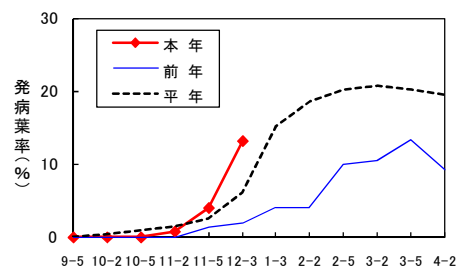
ア 多湿条件下で発病が進展・増加するので、施設内の換気を図る。

イ 草勢の衰えは発生を助長するので、適正な肥培管理を行う。

ウ 病徴が進展してからでは防除が困難なので、発病初期に防除を徹底する。

エ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

オ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



すずかび病の発生推移 月一半旬

## 2 ミナミキイロアザミウマ

### (1) 予報の内容

発生量：平年より多、前年並

### (2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年より多かった(+).

寄生葉率 32.9% (平年 13.7%、前年 32.0%)

被害果率 0.6% (平年 0.8%、前年 0.9%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年並か多いとされている(-)。

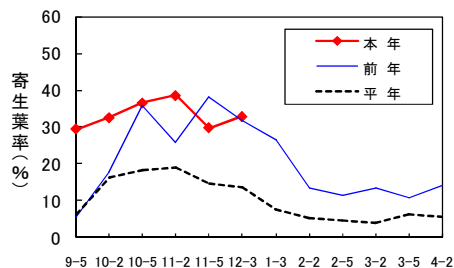
### (3) 防除上の注意

ア 葉裏への寄生が多いので、散布むらがないように丁寧に散布する。

多発ほ場は、約1週間後に再度薬剤散布を行う。

イ ほ場内外の雑草を徹底して除去し、害虫の生息・増殖源を絶つ。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



ミナミキイロアザミウマの発生推移 月一半旬

## 【野菜：冬春トマト】

### 1 葉かび病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年並、前年より多

#### (2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病葉率 1.8 % (平年 2.3%、前年 0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、

降水量は平年並か多いとされている(±)。

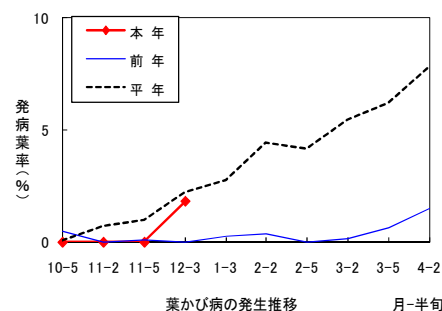
#### (3) 防除上の注意

ア 薬剤は葉の裏側にも十分かかるよう丁寧に散布する。

イ ハウスの換気を行い、多湿にならないように管理する。

ウ 肥料切れを起こすと発生しやすくなるので、適正な肥培管理を行う。

エ 抵抗性品種での発生も確認されているので、抵抗性品種を栽培しているほ場でも、葉かび病の発生に注意する。



## 【野菜：冬春キュウリ】

### 1 ベと病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多

#### (2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年より多かった(+)

発病葉率 7.8% (平年 3.6%、前年 1.5%)

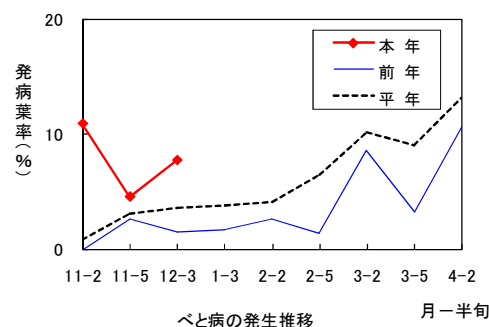
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より

低く、降水量は平年並か多いとされている(±)。

#### (3) 防除上の注意

ア 病勢が進展してからでは防除が困難であるため、初期防除を徹底する。

イ 肥料切れや成り込みによる草勢の衰えは発生を助長するので、適正な肥培管理を行う。



### 2 うどんこ病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多

#### (2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年より多かった(+)

発病葉率 9.6% (平年 1.0%、前年 1.6%)

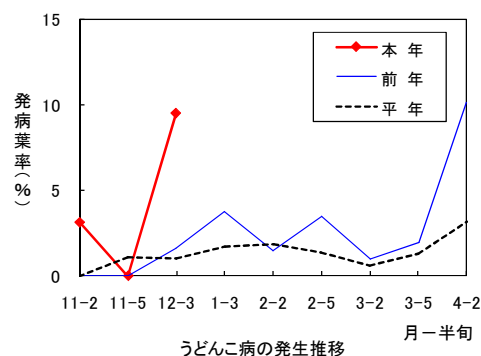
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、

降水量は平年並か多いとされている(±)。

#### (3) 防除上の注意

ア 罹病葉はできる限り除去するとともに、葉の裏側にも十分かかるよう丁寧に散布する。

イ 窒素肥料の多用は本病の発生を助長するので、適正な肥培管理を行う。



## 【野菜：冬レタス】

### 1 菌核病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年より多、前年並

#### (2) 予報の根拠

ア 12月3日半旬調査の結果、発生量は平年より多かった(+)。  
発病株率 3.4% (平年 0.6%、前年 1.2%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年並か多いとされている(±)。

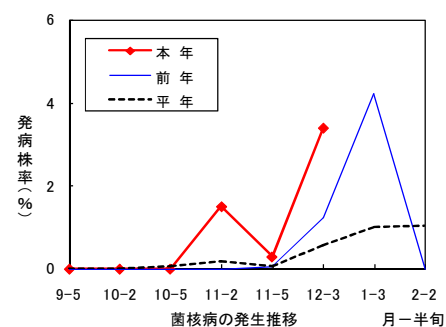
#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤防除は発病初期に重点をおき、株元や葉裏にも薬液が十分にかかるように散布する。

イ トンネル栽培では換気を行い、多湿にならないように管理する。

ウ 被害株は菌核をつくらないうちに早めに除去・処分し、ほ場内に残さないようにする。

エ 多発ほ場では連作を避ける。



【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (1月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
冬春イチゴ 灰色かび病	並	並	やや少	<ul style="list-style-type: none"> <li>罹病果は見つけ次第除去する。</li> <li>また、下葉かぎを随時行い、株間の通風を図って湿度を低下させる。</li> </ul>
冬春ナス 灰色かび病	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>罹病葉や罹病果実は早めに除去し、ほ場外で処分する。</li> </ul>
うどんこ病	少	少	並	
コナジラミ類	やや少	少	やや少	
冬春トマト 灰色かび病	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>開花後の萎れた花弁は、伝染源となるので取り除く。</li> <li>本種は、トマト黄化葉巻病(TYLCV)の媒介虫である。</li> <li>発病株は、早期に抜き取り、ほ場外へ持ち出すとともに、本種の防除を徹底する。</li> </ul>
コナジラミ類	並	並	並	
冬春キュウリ 灰色かび病	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>開花後の萎れた花弁に、灰色のかびを認めたら防除を開始する。</li> <li>初期防除を徹底する。</li> <li>本種は、キュウリ黄化えそ病(MYSV)の媒介虫である。</li> <li>発病株は、早期に抜き取り、ほ場外へ持ち出すとともに、本種の防除を徹底する。</li> <li>本種は、キュウリ退緑黄化病(CCYV)の媒介虫である。</li> <li>発病株は、早期に抜き取り、ほ場外へ持ち出すとともに、本種の防除を徹底する。</li> </ul>
褐斑病	やや少	やや少	並	
ミナミキイロ アザミウマ	並	並	並	
コナジラミ類	やや多	やや多	やや多	
冬キャベツ 菌核病	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>罹病株はただちに抜き取り処分する。</li> <li>形成された菌核は、ほ場に残さないようにする。</li> <li>結球期前の防除を徹底する。</li> </ul>
黒腐病	並	並	並	
コナガ	少	少	やや多	
冬レタス 灰色かび病	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>トンネル内が過湿にならないように、朝夕に被覆資材の開閉を十分に行い、換気に努める。</li> <li>冬に凍害にあうと被害が激しくなるので、トンネル被覆が遅れないようにする。</li> </ul>
腐敗病	並	並	並	

# 農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、安全使用講習会の開催や啓発チラシの配布等に関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・河川等への配慮について、ご指導をお願いします。

## 1 農薬適正使用の徹底

○適用作物、使用量や濃度、使用時期、総使用回数などが記載されたラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。  
(例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

## 2 飛散防止対策の徹底

○風の弱い時に散布する。

○風向、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

○飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

○散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

## 3 保護具の着用

○農薬の散布時には、ラベルの注意・警告マークをよく確認し、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用する。

## 4 農薬の散布後は、必ず散布器具を洗浄

○噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

## 5 防除履歴の記帳

○農薬の散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳する。

## 6 空容器の処分

○空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。

また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。

病害虫防除所では、病害虫の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>  
電子メール [kfok0301@sp.jppn.ne.jp](mailto:kfok0301@sp.jppn.ne.jp)